

平成30年度ふぐ処理師試験問題（ふぐの種類及びふぐ毒に関する知識）

※受験番号を記入してください。

※解答は解答欄に記入してください。

受験番号	
得点	

問1

次の記述にあてはまるふぐの名称を下記の語群から選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

問1 解答欄

ア	③
イ	④
ウ	⑥
エ	①
オ	⑧

(ア) 地方名：アカメ(フグ)、コウヨシ、ナゴヤ、オンビキ

毒性：無毒＝筋肉(ただし、三陸沿岸産は有毒)
有毒＝皮、精巢

特徴：皮膚に小さいイボ状の突起が密布し、胸びれ後方上部の黒斑はない。背面、体側の黒褐色小斑点の大きさや数は個体によって異なる。アカメ、アカメフグと呼ぶところが多い。

(イ) 地方名：トラ、シロ、ホンフグ、モンフグ、オオフグ

毒性：無毒＝筋肉、皮、精巢

特徴：80cm以上に達する大型種。背面、腹面に小棘がある。胸びれ後方上部に黒斑があり、周りは白い。臀ひれは白色か紅色で、背面の色彩・斑紋はすみ場所、大きさにより異なる。

(ウ) 地方名：アカメフグ、イソフグ、スズメフグ、スナフグ、ハマフグ

毒性：無毒＝筋肉
有毒＝皮、精巢

特徴：北海道を除く沿岸で最も普通に見られる。背面、腹面に小棘があり、背面には小さな白点が見られる。

(エ) 地方名：イソフグ、モフグ、コメフグ、チャンフグ

毒性：無毒＝筋肉、精巢
有毒＝皮

特徴：体に小棘はなく、胸びれ後方上部の黒斑はない。臀ひれが白色で背面は茶色の地色に濃褐色の模様があり、大型魚ではこれが途切れて点状になる。

(オ) 地方名：ナゴヤ(フグ)、モフグ、メアカフグ、ホシフグト

毒性：無毒＝筋肉(ただし、三陸沿岸産は有毒)
有毒＝皮、精巢

特徴：体に小棘があり、臀ひれは淡黄色である。はっきりした黒紋はなく、ほぼ円形の小白点がある。

- ①ショウサイフグ ②マフグ ③ヒガンフグ ④トラフグ ⑤カラス ⑥クサフグ
⑦ハコフグ ⑧コモフグ

※解答は解答欄に記入してください。

得点	
----	--

問2

次の(ア)～(オ)は、ふぐ毒(テトロドトキシン)の性質と特徴に関して述べたものです。正しいものには○印を、誤っているものには×印を解答欄に記入しなさい。

- (ア) 酸に弱いため、食用酢やクエン酸など酸性のもので容易に破壊される。
- (イ) 免疫抗体が出来るため、再度中毒にあっても、その症状は軽度もしくは無症状に終わることが多い。
- (ウ) 耐熱性である。ただし、アルカリ性のもとですみやかに毒性が消失する。
- (エ) ある種の細胞毒に次いで最も強いトキシンに属し、青酸カリの約1000倍とも言われている。
- (オ) 白色の粉末で、生物からのみ抽出でき、化学合成することはできない。

問2 解答欄

ア	×
イ	×
ウ	○
エ	○
オ	×

問3

次の(ア)～(オ)は、ふぐの生体と毒性に関して述べたものです。正しいものには○印を、誤っているものには×印を解答欄に記入しなさい。

- (ア) ふぐの毒性は季節や個体差によって、毒力や毒量に差異がある。
- (イ) ふぐの精巢(しらこ)は毛細血管が多く、卵巣に比べて柔軟で断面は空洞になっており、極小の物でも拡大すると容易に鑑別できる。
- (ウ) トラフグの卵巣(まこ)は有毒であり、未熟なものは特に鑑別に注意が必要である。
- (エ) ふぐの腎臓は「かくしぎも」「抱きぎも」などと呼ばれており、無毒で食用である。
- (オ) ふぐの皮と皮下組織の毒性は同程度で、一般に黒い色の皮の種類(トラフグ・カラス)のものは無害であるとされている。

問3 解答欄

ア	○
イ	×
ウ	○
エ	×
オ	○

問4

次の文章はふぐ毒による中毒症状について述べたものです。()の中に内に入る適当な語句を下記の語群から選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

ふぐ毒は一種の神経毒で、摂取から速いもので30分足らず、遅くとも(ア)以内で症状が現れる。初期症状として、(イ)が起こり、皮膚感覚・味覚の鈍麻・おう吐などが起こる。さらに、手指・上下肢の(ウ)、体温下降、血圧(エ)などが起こり、重症の場合は(オ)の末、死に至ることもある。

問4 解答欄

ア	①
イ	⑤
ウ	④
エ	⑧
オ	⑥

- | |
|---|
| ①2～3時間 ②2～3日 ③下痢 ④運動麻痺 ⑤知覚麻痺 ⑥呼吸困難
⑦上昇 ⑧下降 |
|---|